

ビジョナリーワークショップ

2050 年の倶知安町

一町民と若手研究者で描くビジョン

会議報告書

日時：2023 年 3 月 25（土）－26 日（日）

場所：Hakobune Niseko

主催：京都大学 L-INSIGHT

共催：一般社団法人倶知安観光協会

後援：倶知安町

目次

目次	1
要約	2
背景	2
目的	3
参加者	3
プログラム	4
ワークショップ開催挨拶	5
全体講演	5
議論視点の紹介：観光と開発と自然環境共生	6
議論視点の紹介：教育やコミュニティ発展と公衆衛生	6
議論視点の紹介：気候変動と一次産業	6
議論視点の紹介：次世代を担う中高校生	6
グループワーク：観光と開発と自然環境共生	6
グループワーク：教育やコミュニティ発展と公衆衛生	8
グループワーク：気候変動と一次産業	9
次世代を担う中高校生による議論	9
全体討議	11
結語	12
謝辞	13
留意事項	13
問い合わせ先	13
ANNEX1：ワークショップ事務局	14
ANNEX2：参加者	15
ANNEX3：本ワークショップのメディアによる紹介	17
ANNEX4：ワークショップで使用したプレゼンテーション資料	18
ANNEX5：アンケート結果	27

要約

本ワークショップは、2050年の倶知安町を見据え、参加者が望む町の未来像・理想像とその実現に向けたアイデアや可能性を探索することを目的として開催され、倶知安町民および京都大学の若手研究者と大学生らを中心に合計48名が参加した。開会あいさつにて文字・倶知安町長から、現在の中高生たちよりもさらに先の世代を見据えた町づくりをする必要がある旨が協調された。全体公演では田中・倶知安観光協会理事から、日本に先駆けた新たなグローバル都市文化の土台を作りたい旨が述べられた。参加者は、①観光と開発と自然環境共生、②教育やコミュニティ発展と公衆衛生、③気候変動と一次産業、④Chief Future Officer 中高校生による議論という4つの視点のいずれかについてグループワークを行った。グループワークではまず、自身が大切にしたい価値観と町の魅力を参加者と共有し、その後、2050年の倶知安町の理想的な姿を想像してスケッチを描いた。続いて理想的な町を創造するために自分・町ができることを考え、倶知安町の2050年ビジョンをまとめた。最終的には、キャッチコピーという形で2050年に町が目指すべき以下のビジョンが打ち出された。「シンカ」には、進化、深化、真価、thinkなどの意が込められ、技術が進歩しコミュニティが深まることによって、羊蹄山やそれにより育まれる美味しい作物の価値が保たれて欲しいという願いが込められている。またサブタイトルには、町の多様性と国際性、町民によるオーナーシップが表現されている。

おいしさ シンカ 羊蹄山 ～NOW WE SEE, NOW WE CHANGE, FUN NISEKO～

背景

北海道倶知安町は北海道の西部に位置する町で、ニセコ連峰や羊蹄山などの自然景観が美しいことで知られている。約15,000人が住むこの地域の主要産業の一つが観光業で、中でもスキー場や温泉などが有名である。特に近年では、外国人観光客の増加に伴い多言語対応の観光施設やサービスの充実が進んでいる。地元の食材を使った料理や地元の工芸品なども魅力的で、地元の食材を使った料理の代表例としては各種のじゃがいも料理、ジンギスカンや新鮮な海産物を使った海鮮料理、工芸品には木工品やガラス工芸品などが挙げられる。一方、北海道倶知安町にはいくつかの課題も存在する。例えば、地域の過疎化や高齢化が進んでおり、若者や労働力の流出が懸念されている。また、観光客が季節的に集中するためオフシーズンの経済的な課題もある。さらに、外資企業の参入もあり開発が進む中、地域のエネルギー不足や人口集中による治安・公衆衛生の悪化、地元の人々への理解など課題も多く出てきており、行政をはじめ様々な町民が課題解決に奔走している。

町づくりにおいて現状の課題に対処することは重要であるが、長期的な視点でのビジョンを考えることも同様に重要である。町は常に変化していくものであり、将来にわたって発展していくためには、現状の問題だけでなく、将来の課題にも対処できる柔軟性や適応力を持つ必要があるか

らに他ならない。長期的な視点でビジョンを考えることによって、将来の町の方向性や目標を定めることもできる。これにより、町の未来像・理想像を明確にし、地域住民や関係者が共有することで、ビジョンを達成するために必要な戦略やアクションを策定することにつながる。例えば、俱知安町の過疎化や高齢化を例にとると、短期的には若者や労働力の流入を促す施策が必要だが、長期的には地域の魅力を高め、人々が住み続けたいとなるような町づくりを進めなくてはならない。そのためには、教育・文化・産業など多方面にわたる取り組みが必要になると言える。さらに、ビジョンを考えることは住民参加型の町づくりにもつながる。住民が自分たちの生活や地域に対して望む未来像・理想像を共有し、その実現に向けて主体的に取り組むことができれば、住民の関心や意欲が高まり、町づくりに対する参加度が増すことが期待できる。

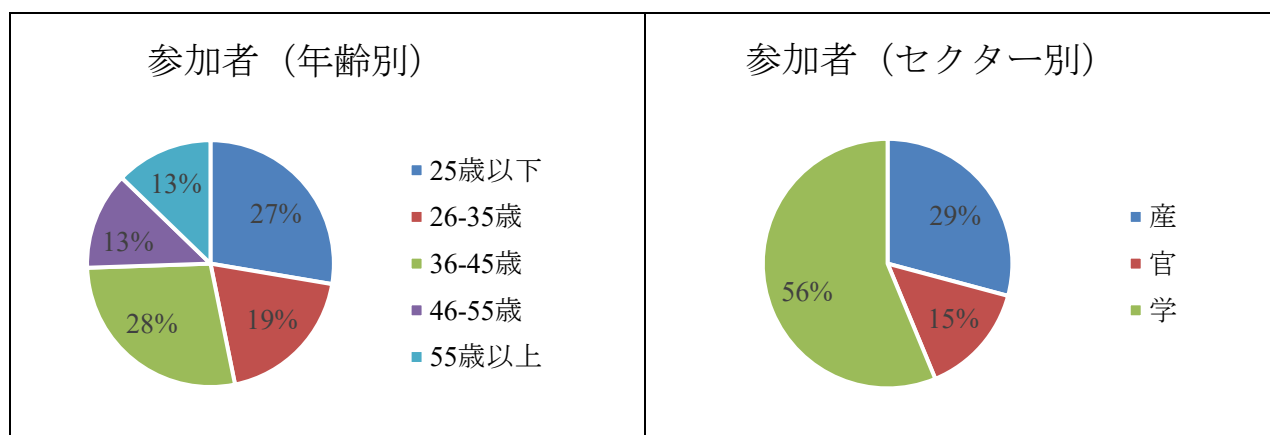
2022年7月、京都大学「世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム」（通称 L-INSIGHT）¹に参画するフェローは、俱知安町にてフィールドワークを行った。多くの魅力とともに町が抱える諸課題を知り、地元住民との意見交換をする中で、町のビジョンや長期的な戦略に専門的な視点を加えることができる可能性を見出し、本シンポジウムを主催するに至った。

目的

2050年の俱知安町を見据え、参加者が望む町の未来像・理想像とその実現に向けたアイデアや可能性を探索することを目的とする。

参加者

本ワークショップでは、俱知安町の農業従事者、商業関係者、スキー場・開発事業者、中学生・高校生、俱知安町職員、病院関係者など様々なステークホルダーと京都大学 L-INSIGHT の若手研究者ら合計 47 名が参加した。年齢別では 36-45 歳が 28%と最も多く、セクター別では学術界が半数を超えた。詳細は ANNEX に記載。



¹ 「世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム」（通称 L-INSIGHT）は、2019 年 11 月に文部科学省による令和元年度科学技術人材育成費補助事業の「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」の採択を受け事業を開始された。本事業の目的は、2030 年代に世界一級の研究者と成り得る、世界視力を備えた次世代トップ研究者を育成するためのプログラムを開発及び実施し、改善を経て総合化・体系化したプログラムを開発し普及してゆくことである。

プログラム

1日目：3月25日

時間	内容	講演者（敬称略）
10:00-12:00	開会挨拶	文字 一志
	趣旨説明	白石 晃將
	全体講演	田中 義人
	アイスブレイク	藤井 悠里
	議論視点の紹介：観光と開発と自然環境共生	田中 智大
	議論視点の紹介：教育やコミュニティ発展と公衆衛生	江口 佳那
	議論視点の紹介：気候変動と一次産業	磯部 昌憲
	議論視点の紹介：次世代を担う中高校生	宋和 慶盛
13:30-17:30	グループワーク 1 自分たちが大切にしたい倶知安町の価値を引出す	
	グループワーク 2 実現したい倶知安町のビジョンを描く	
	グループワーク 3 ビジョンの共有と達成に向けて何ができるか	
17:30	グループからの報告	
18:00	1日目閉会の挨拶	田中 志音 阪井 せら

2日目：3月26日

時間	内容	講演者（敬称略）
09:00	2日目開会の挨拶	早川 貴士
09:10	グループワーク 4 倶知安町の2050年ビジョンをまとめる	
10:15	グループからの報告、全体討議	
11:30	閉会挨拶	渡辺 淳子

ワークショップ開催挨拶

文字・倶知安町長は、倶知安町は 50 年前スキーを町技として宣言し、その中で空から降る雪を「天与の宝」と表現しスキーを通しての町づくりが進んでいる。2000 年代以降、ニセコのパウダースノーは世界中から評価され、国内外から多くのスキー客で溢れるリゾートにまで成長した。しかしながら、急速な投資による開発や季節に偏りがある観光客数などにより生じる課題や克服すべき点も山積みである。今回のワークショップでは、専門的知見を持った京都大学の研究者や学生とともに町の現状を認識しつつ、2050 年の理想の倶知安町像を描くとともに、それに向けて行うべき持続可能な方法での開発について考えたい。また、今の中高生たちよりもさらに先の世代を見据えた町づくりへのヒントが得られることを期待して、開会挨拶を締めくくった。

趣旨説明

白石・京都大学 L-INSIGHT フェローは、2050 年の倶知安町を見据え、参加者が望む町の未来像・理想像とその実現に向けたアイデアや可能性を探索することを目的とすると述べた。2 日間にわたるワークショップでは、全体講演と議題支店の紹介により倶知安町の現状を知る。そして、グループワーク 1 では自身が大切にしたい価値観と町の魅力を引き出し、グループワーク 2 では実現したい倶知安町の理想的な姿を想像してスケッチを描く。続いてグループワーク 3 では理想的な町を創造するために自分・町ができることを考える。その後のグループワーク 4 と全体討議にて、倶知安町の 2050 年ビジョンをまとめる。会の中では、未来の目標（あるべき姿）を起点として、現在とのギャップ・問題を逆算して解決策を考えるバックキャスティング（未来思考）という思考法を取り、議論を進めるとした。

全体講演

田中・倶知安観光協会理事は、1947 年の「関税および貿易に関する一般協定」と 1994 年の「サービスの貿易に関する一般協定」を皮切りにグローバル経済が幕を上げたと紹介。それ以降、倶知安町を含むニセコエリアは日本有数のリゾート地域に急成長し、海外資本の流入からヒト・モノ・カネの動きが非常に活発である。しかしながらその反面、急激な町の開発および国際化による悪影響も受けている。特に、法整備の遅れによる行政コストの増加と無計画な開発による環境破壊や交通渋滞は深刻な課題である。現在の状況が続くと、諸外国による土地の買収が進み、国や自治体による制御が効かなくなってしまう懸念がある。今回のワークショップではこれからの日本の縮図とも言える倶知安町において、現状を正しく認識しつつ、地域特有の利点を活かした明るい 2050 年の倶知安町像を描きたい。その中で、日本に先駆けた新たなグローバル都市文化の土台を作りたいと強く述べた。

議論視点の紹介：観光と開発と自然環境共生

田中・京都大学 L-INSIGHT フェローは、倶知安町の街づくりの状況や住民の意見について町の資料を基に簡単に紹介するとともに、コンパクトシティや災害を考慮した街づくりなど近年の地方自治体一般に当てはまる課題を簡単に説明した。さらに観光と対立しがちな自然環境について、街や観光を維持する基盤であることを「生態系サービス」という概念を用いて整理した。最後に、本ワークショップでは行政的な内容ではなく、安全で快適で豊かな暮らしを実現するために必要なことを議論することを強調した。

議論視点の紹介：教育やコミュニティ発展と公衆衛生

江口・京都大学 L-INSIGHT フェローは、まず「日常生活における関わりの頻度」に着目して視点タイトルの関係性を明らかにした。次に、議論を進める上でのヒントとなる各種キーワードの説明を行い、大学以上の教育機関が存在しない倶知安町の教育機関の現状やコミュニティ・公衆衛生という言葉の定義を参加者全員と共有した。また、田中義人・倶知安町観光協会理事の全体講演で紹介された町の現状のうち、本視点に関するポイントをまとめて振り返りを行った。

議論視点の紹介：気候変動と一次産業

磯部・京都大学 L-INSIGHT フェローは、国内需要における北海道の農林水産業の重要性について、特に全国 1 位を誇る食料自給率を通じた食の安全保証への貢献の高さを紹介した。2050 年大きな課題となる気候変動やタンパク質危機に対しても、農林水産分野における温室効果ガス削減によるカーボンニュートラル達成など北海道の活躍はますます重要である。「2050 年の倶知安町」の一次産業を考える上では、そのような新しい課題に加え、担い手不足や耕作放棄地などの現存課題の両者の対策が不可欠で、技術導入等による収益性向上が一助となることを紹介した。

議論視点の紹介：次世代を担う中高校生

宋和・京都大学 L-INSIGHT フェローは、次世代を担う中高生の視点に関して、その重要性や議論するためのポイントを説明した。特に、中高生の発想の面白さや中高生が主役となる事例（子ども議会やユングレナ株式会社による最高未来責任者（CFO: Chief Future Officer）制度）を紹介し、中高生が町の CFO として考える方針を議論した。また、中高生の視点で大切にしたい三箇条として、「①なんで？を大切にしよう！」、「②いろんな人の気持ちを考えてみよう！」、「③思ったことをそのまま提案してみよう！」を設定した。

グループワーク：観光と開発と自然環境共生

倶知安町の建設会社社員（漆原）、ホテル経営者（二川原・岩佐）、ホテル広報担当者（丸谷）、観光会社社員（斎藤）、写真家（渡辺）に加え、京都大学から L-INSIGHT フェロー（田中・本郷）、情報学研究科大学院生（大前）、農学部学生（武部）らが参加し、倶知安町およびニセコエ

リアの観光開発と環境保全との両立に関するビジョンを議論した。まず、2050 年に向けた倶知安町独自の魅力として、羊蹄山と尻別川に代表されるきれいな自然と美味しい食べ物、変化や国際化に対する受容性が高い住民の意識が挙げられた。さらに育むべき観光資源としては、サイクリングやハイキングなど夏季の観光コースの発展、多数の外国人観光客が滞在することを活かした日本人学生の英語教育や国際交流機会の提供、e スポーツなどとのコラボレーションなどが提案された。一方で、町の観光地化と住環境の維持とのバランスに関しては、住民間でも賛否が分かれており、町の区域分け（ゾーニング）などによって多様な住環境ニーズに応えられるような整備も必要では、との意見が出た。ただし、区域間で住民のコミュニケーションが不足しないような工夫が必要でもある。また、近年、外国資本家による不動産投資を目的とした土地の売買が多数行われており、住民の意識や景観に対する配慮が欠けた森林伐採や開発が一部で起きている。このような課題に対しては、住民・資本家・行政のそれぞれが倶知安町のまちづくりを進めるアクターとしてオーナーシップの意識を持つ必要がある、という意見が出た。

本グループで最終的に採用したキャッチコピーは「We Are the Owners, We Are the NISEKO!」であった。2050 年に向けて、テクノロジーの進歩により人々の定住性が弱まって移動と交流がより頻繁になるかもしれない。倶知安町において、発展の基軸である観光の発展と文化・自然資源の保全を両立させるためには、町民だけでなく、近隣エリアの住民、さらに観光客や外部資本家をもニセコエリアの「オーナー」として受容し、積極的な対話を重ねられる関係性を構築する必要があるだろう。

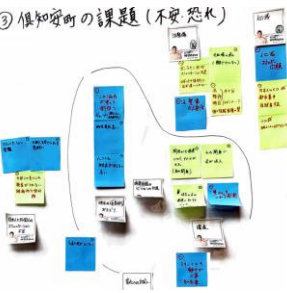
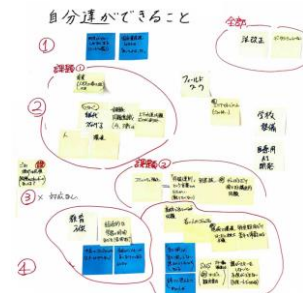
※グループワークで使用した資料

今の自分・大切にしている価値観	倶知安町の魅力	2050 年の自分像と理想の倶知安町
倶知安町の課題（不安・恐れ）	倶知安町の未来理想図	自分たちができること

グループワーク：教育やコミュニティ発展と公衆衛生

自然保護活動従事者（山根）、道内大学の研究者（藤野）、倶知安町議会議員（古谷）、倶知安高校教員（谷川）・倶知安観光協会（渡辺・早川）に加え、京都大学から L-INSIGHT フェロー（江口・岡村）、農学部学生（市川・光部）および医学研究科大学院生（森本・佐々木）らが参加し、ニセコ倶知安エリアの教育環境・インフラ状況・公衆衛生をテーマの中心に据えて議論をおこなった。2050 年のビジョンとして、北海道からの参加者は皆「自然保護・改善を念頭に置いた更なる文化の発展」を重要事項として挙げ、このエリアの特徴である国際性・多様性に対する否定的な発言はみられなかった。このビジョンの前提条件として、教育面で「中高生へのニセコ倶知安エリア特有の問題点の共有と教育、そして彼らの関心の獲得」、コミュニティ面で「世代的・人種的多様性のある、また AI やテクノロジーと共生できる先進的な町づくり」、公衆衛生面で「都市圏の医療機関との連携、テクノロジーを用いた健康管理・増進」といったアイデアが多く挙げられた。最終的には、本グループのキャッチコピーとして「レインボーエクスプレス 蝦夷富士と共生する街 〜いいじゃん くっちゃん〜」が採用され、そこには文化の多様性・魅力の多さ・羊蹄山・アクセスの改善の意が含まれている。

※グループワークで使用した資料

		
今の自分・大切にしている価値観	倶知安町の魅力	2050 年の自分像と理想の倶知安町
		
倶知安町の課題（不安・恐れ）	倶知安町の未来理想図	自分たちができること

グループワーク：気候変動と一次産業

農業（青柳・中崎）、倶知安町役場観光商工課（沼田）、倶知安観光協会（渡辺）に携わる方々に加え、京都大学から L-INSIGHT フェロー（磯部・藤井）、農学部大学生（土田）らが参加し、農業を中心として、羊蹄山が育む美味しい作物や新しいテクノロジーに期待することなどについて議論した。農地だった場所が観光のために買われていく点や収益がないと一次産業を続けていけない点、さらには開発のやり方は環境にも影響する点などから観光開発と同時に議論していく必要がある点などが指摘された。また、農業のあり方が変わりつつあり、農家も単に作物を作るだけではなく、工業製品のように「売れる製品」の開発をしなければならない時代になってきたという意見が挙がった。このように、産業間の交流や生産者と消費者の間を繋ぐシステムの構築が必須であることが議論の中から明確化された。今の環境を未来に残すために、今一步踏み出さなければいけないタイミングであるという認識が町民の中で共有されていた印象だったため、有意義な議論の場は継続して必要である。最終的には、本グループのキャッチコピーとして「おいしさ シンカ 羊蹄山」が採用された。詳細に関しては後述の全体討議参照。

※グループワークで使用した資料

今の自分・大切にしている価値観	倶知安町の魅力	2050年の自分像と理想の倶知安町
倶知安町の課題（不安・恐れ）	倶知安町の未来理想図	自分たちができること

次世代を担う中高校生による議論

1 日目は、中学生（田中雪・田中し・阪井・岡田）、高校生（内田）、京都大学から L-INSIGHT フェロー（宋和・桂）、総合人間学学部生（石舘）らが参加した。2 日目は、1 日目の参加者に加えて、高校生（佐々木・成兼）、小林（HAKOBUNE マネージャー）、シュ（台湾出身 HAKOBUNE 従業員）が参加した。グループワークの中では、なぜ？という素朴な疑問を大事に

した。その結果、活発な議論が行われ、たくさんのアイデアがでた。そのアイデアは、町が抱える課題と密接に関わっていた。例えば、中高生は、スポーツや文化活動、娯楽施設がもっと欲しいと強く望んでいる。現在、中高生にとっての居場所は少なく、スーパーのフードコートで友達と勉強し、近隣の町で映画を見て、買い物をしている。観光客向けの飲食店や温泉はあるが、値段が高いため町民が気軽にいけない。また、町の中でも住む場所（山麓、市街地）、国籍によって立場や価値観が違うことにも気づかされた。例えば、山麓（ヒラフ等）に住む人は外国資本の支配を脅威に感じていて、日本人と外国人の住み分けを強く希望しているが、市街地に住む人は外国人との共存を望んでいる。また、外国人は経済的に豊かであっても言語の問題があり、相談の窓口が少ないため、孤独や不満を抱えていることがわかった。以上より、町民の意見が一色単ではないという現実を垣間見た。

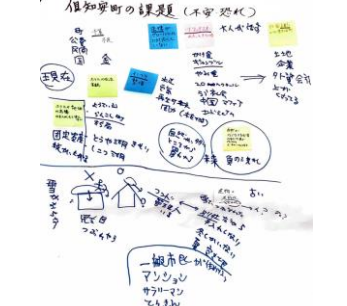
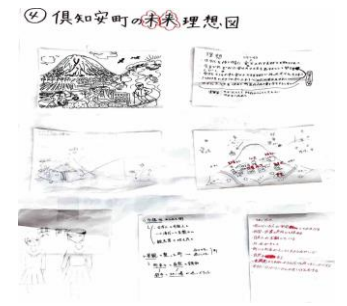
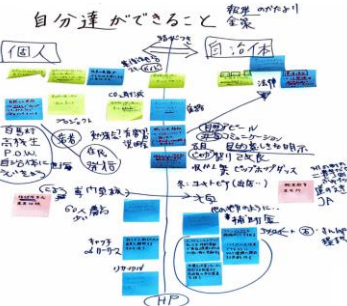
大切にしている価値観として、両親が数十年愛用しているジャケットや帽子を大事に使いたいと思っていること、情報を鵜呑みにせず、自分で考え、住民が町のルールを決めること等が挙げられた。中高生は、冬だけでなく一年を通じた町の良さを町外の人に伝えたいと考えている。他の市町村の事例として白馬村の活動（POW）が挙げられ、中高生自身が SNS 発信等を通じて町をアピールしたいという意見が出た。

理想の町のビジョンについて、主に、教育・福祉の充実、自然保護、外国人との共存、古い伝統の継承に関する意見がでた。それらのビジョンを基に複数のキャッチコピー（「多様な文化に架け橋を」、「私達と地元の自然、人、動物を守ろう」、「小中高生に遊び場を」、「俱知安町の現実を見よう」、「Don't resist change」等）が提案されたが、最終的なキャッチコピーは、「守ろう つなごう 多様なくっちゃん NOW WE SEE, NOW WE CHANGE, FUN KUTCHAN」に決まった（全体で2番目に多い得票数）。“多様なくっちゃん”には、文化（音楽等）、自然（森、景色）、人、動物、遊び場など中高生にとって大事なものが含まれ、キャッチコピーにはそれらを“守ろう”、“つなごう”という想いが込められている。“つなごう”には2種類の意味があって、世代、国、住む場所等の違いを町民が主導的につなぎ、現在の中高生が多様なくっちゃんを2050年に向けて次世代につないでいくという意味が含まれる。そのためにできることとして、イベント（祭り、ワークショップ、BBQ、お茶会など）や意見を発表する場を作り、参加すること、（遊び場がないというけど）空いた施設、コンドミニウムを解放して、町民同士が触れ合うこと、芸術文化の普及活動に積極的に携わっていくこと等が挙げられた。英語のキャッチコピーに”FUN”とあるように、肩苦しくなく、楽しむことも同時に重要である。

中高生からは、“大学生の意見を聞けて楽しかった”、“このような機会が増えればいいと思った”、“地元を離れて東京に行って仕事をする、地域おこしには関係ないと言っている人も周りに

多かったが、ここに参加した人が倶知安町を愛してくれてありがたいと思った”等の意見があった。

※グループワークで使用した資料

		
今の自分・大切にしている価値観	倶知安町の魅力	2050年の自分像と理想の倶知安町
		
倶知安町の課題 (不安・恐れ)	倶知安町の未来理想図	自分たちができること

全体討議

各グループから提案された以下4つの町のビジョンを基に、2050年の町の理想像・未来像としてふさわしいキャッチコピーを参加者全員で議論した。

1. We Are the Owners, We Are the NISEKO!
2. レインボーエクスプレス 蝦夷富士と共生する街 ～いいじゃん くっちゃん～
3. おいしさ シンカ 羊蹄山
4. 守ろう つなごう 多様なくっちゃん

NOW WE SEE, NOW WE CHANGE, FUN KUTCHAN

最終的には、以下を本ワークショップ参加者の総意によるキャッチコピーとして採用した。「シンカ」には、進化、深化、真価、thinkなどの意を含め、技術が進歩しコミュニティが深まることによって、羊蹄山やそれにより育まれる美味しい作物の価値が保たれて欲しいという願いが込

められている。また、「おいしさ」をひらがな、「シンカ」をカタカナ、「羊蹄山」を漢字にすることで多様性を、サブタイトルは英語表記で多様性を、We で Ownership を表現した。

おいしさ シンカ 羊蹄山

～NOW WE SEE, NOW WE CHANGE, FUN NISEKO～

結語

本ビジョナリーワークショップは、北海道倶知安町民および京都大学の若手研究者と大学生を中心とする参加者が、倶知安町の未来についてビジョンを描き、その目標を達成するためのアイデアを交換する示唆に富む会合となった。町の将来を考える会議は倶知安だけでなく全国各地で行われているが、10代の中高生を含む多様な層の地元市民とともに若手研究者が多数参加する会合は非常に稀である。2日間を通じて熱量を保ったまま議論を交わし、約30年後の町のビジョンを描くことができたのは参加者全員の会合への大きな貢献があったからに他ならない。参加した倶知安町民からは、「日常の職場においては目の前の課題への対応が優先となり、遠い未来のことはなかなか考えられなかったが、ビジョンを描くためにはまず理想の町を描くことから始めなくてはならないことがわかった」、また中高生からは「大学生や大学院生、若手研究者と意見交換できとても有意義だった」などと口々に感想が上がった。一方若手研究者からは、「研究から得られる技術や知見を町づくりに活かすことができると実感できた」、また大学生からは「専門知識をつけた後に、将来それを実践する場を沢山作り出せる研究者になりたい」と意見があった。研究成果として得られた知見や技術には学術的価値があるのはもちろん、それが社会で有効活用されると、新たな社会システムの創出や、製品・サービスの開発などにつながり、経済や社会に多くの恩恵をもたらす。そのためにも市民と研究者との対話は欠かせないため、今後もこのような機会をできるだけ多く設けていきたい。

本ワークショップ後の倶知安町と京都大学 L-INSIGHT の連携としては、以下の3つの可能性を中心に模索していきたい。①講演会などを利用した L-INSIGHT フェローによる研究成果や知見の提供、②倶知安町の高校・中学訪問を通じた L-INSIGHT フェローによる出前授業や京都大学の学生による学生生活の紹介、③倶知安町で得られた様々なデータ分析と得られた結果の解釈の提供。これらの連携を通じて、倶知安町としては京都大学からの情報や研究知見を得ることができ、また京都大学としては市民や社会のニーズを的確に反映した研究課題を設定することに繋がる可能性が高い。倶知安町と京都大学 L-INSIGHT の連携が今後も継続することを楽しみにしている。

謝辞

ワークショップ開催にあたり、加者への情報提供などに尽力くださった一般社団倶知安観光協会の鈴木紀彦事務局長、会合開催中に軽食を提供くださった同協会の渡辺淳子理事に深く感謝申し上げます。

留意事項

本ワークショップは、令和元年度 科学技術人材育成費補助事業「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」採択課題である「世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム(通称 L-INSIGHT)」の支援を受け、参画するフェローによる企画として開催された。

この会議レポートは、ワークショップ事務局（ANNEX1）において、当日の講演、グループワーク等をもとに取りまとめられたものである。レポートに関する問い合わせ先は下記の通りである。また、それぞれの回答は、所属する組織の意見を反映するものではない。

問い合わせ先

白石晃将（京都大学大学院農学研究科応用生命科学専攻）

Tel: 075-753-6395

E-mail: shiraishi.kosuke.7t@kyoto-u.ac.jp

ANNEX1：ワークショップ事務局

京都大学 L-INSIGHT

磯部 昌憲	京都大学医学部附属病院 精神科神経科
江口 佳那	京都大学大学院医学研究科 リアルワールドデータ研究開発講座
岡村 亮輔	京都大学医学部附属病院 消化管外科
桂 有加子	京都大学ヒト行動進化研究センター ゲノム進化分野
白石 晃将	京都大学大学院農学研究科 応用生命科学専攻
島村 道代	京都大学学際融合教育研究推進センター 次世代研究創成ユニット
宋和 慶盛	京都大学大学院農学研究科 応用生命科学専攻
田中 智大	京都大学大学院工学研究科 社会基盤工学専攻
本郷 峻	京都大学アフリカ地域研究資料センター
藤井 悠里	京都大学大学院人間・環境学研究科 相関環境学専攻自然環境動態論講座

一般社団法人俱知安観光協会

田中 義人	一般社団法人俱知安観光協会
早川 貴士	一般社団法人俱知安観光協会

ANNEX2：参加者

青柳 圭太

あおやなぎ農園

石館 建人

京都大学総合人間学部

磯部 昌憲

京都大学医学部附属病院

市川 小夏

京都大学農学部

岩佐 信

シャレーアイビー ヒラフ

内田 大地

俱知安高校

漆原 結衣

岩田地崎建設

江口 佳那

京都大学大学院医学研究科

大前 裕輝

京都大学大学院情報学研究科

岡田 健

俱知安中学

岡村 亮輔

京都大学医学部附属病院

岡本 幸太

一般社団法人俱知安観光協会

桂 有加子

京都大学ヒト行動進化研究センター

唐澤 隆博

くっちゃんプラスオーケストラ

光部 雅俊

京都大学大学院総合生存学館

小林 めぐみ

HAKOBUNE NISEKO

斉藤 圭司

東急リゾート

斉藤 正利

建築（塗装業）釣り河川

阪井 せら

俱知安中学

佐々木 もえ

俱知安高校

佐々木 彩恵子

京都大学大学院医学研究科

島村 道代

京都大学学際融合教育研究推進センター

白石 晃將

京都大学大学院農学研究科

宋和 慶盛

京都大学大学院農学研究科

武部 幸佳

京都大学農学部

田中 志音

俱知安中学

田中 智大

京都大学大学院工学研究科

田中 雪音

俱知安中学

田中 義人

一般社団法人俱知安観光協会

谷川 敬一

俱知安高校

土田 美咲

京都大学農学部

中崎 貴

有限会社中崎農場

成兼 のぞみ

俱知安高校

二川原 康平
ペンショングランパパ

ヤミン シュ
HAKOBUNE NISEKO

沼田 尚也
倶知安町役場観光商工課

渡辺 淳子
一般社団法人倶知安観光協会

早川 貴士
一般社団法人倶知安観光協会

渡辺 洋一
写真家

藤井 悠里
京都大学大学院人間・環境学
研究科

藤野 雄一
函館未来大学

古谷 眞司
ニセコ環境

本郷 峻
京都大学アフリカ地域研究資
料センター

丸谷 智子
ZABORIN

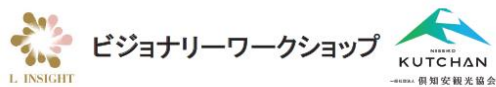
文字 一志
倶知安町長

森本 佳奈
京都大学医学部附属病院

山根 敏夫
オビラメの会

ANNEX4：ワークショップで使用したプレゼンテーション資料

会の趣旨説明



2050年の倶知安町 一町民と若手研究者で描くビジョン

京都大学L-INSIGHT主催
一般社団法人倶知安観光協会共催・倶知安町後援
日時：2023年3月25-26日（土・日） 場所：Hakobune Niseko

なぜ、京都大学から？なぜ倶知安町？

会の趣旨

倶知安町の農業従事者、商業関係者、スキー場・開発事業者、
中学生・高校生、倶知安町職員、病院関係者の皆さん
＋
京都大学L-INSIGHTの若手研究者
とで
2050年倶知安町のまの夢・ビジョンを描く！

- ①どんな町が理想的ですか？
- ②理想的な町にするには何をすべきでしょうか？

2022年7月の訪問



京都大学L-INSIGHT

- ・ 得る一インサイト(世界視力)
 - ・ 世界視力＝時間、地理、学問分野、文化圏などの境域を越えて見渡し、見抜き、見通す力
- ・ 多様な分野の若手研究者が集い、世界的に活躍する研究者を育成することを目的としている

L INSIGHT

今日・明日の流れ

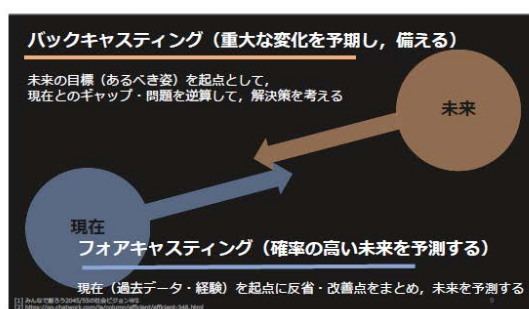
※ 報告書作成の関係上、本日の様子を写真撮影させて頂きます。Web公開してほしくない人は個別にお知らせください

時間	3月25日	内容
10:00	開会あいさつ	
		趣旨説明
		写真撮影
		全体講演
		アイスブレイク（自己紹介・緊張ほぐし）
		視座の紹介①～④
12:00	お昼休憩（お弁当とドリンク）	
13:30	グループワーク1：倶知安町の価値・魅力を引き出す	
	グループワーク2：実現したい倶知安町のビジョンを描く	
	グループワーク3：ビジョンの達成に向けて何ができるか	
	グループワーク4：報告（視点別）	
18:00	写真撮影	
	1日目閉会	
時間	3月26日	内容
09:00	写真撮影	
	グループワーク4：倶知安町の2050年ビジョンをまとめる	
	グループからの報告・全体議論	
	開会あいさつ	
11:00	写真撮影	

ワークショップの進め方

- ・ 倶知安町の現状を知る
全体講演＋議題の紹介
- 視点別 大切にしたい価値観＋町の魅力を引き出す
グループワーク1
- 視点別 実現したい倶知安町のビジョンを描く
グループワーク2
- 年齢別 ビジョン達成に向けてできることを考える
グループワーク3
- 視点別 倶知安町の2050年ビジョンをまとめる
グループワーク4＋全体討議

未来思考



議題

- 視点1: 観光と開発と自然環境共生

進行役: 田中智大さん



- 視点2: 教育やコミュニティ発展と公衆衛生

進行役: 江口佳那さん



- 視点3: 気候変動と一次産業

進行役: 磯部昌憲さん



- 視点4: 中高生

進行役: 宋和慶盛さん



グループワーク2: 2050年を想像して(視点別)

- 2050年あなたはどこでなしていますか？
- 2050年の理想的な町を思い浮かべて。どんなことが当たり前にできていますか？

いつでもキャンプに行くことができ、休日にリフレッシュできる！（開発チーム）

ウチのジャガイモの生産量が10倍になっていて、皆が倶知安ブランドを知っている（農業チーム）

- それを妨げるもの・ことがあるとすればどのようなことでしょうか？

森林が伐採されてキャンプ場がなくなってしまう。休日がないくらい忙しくなる。

- あなたが想像している理想的な町はどのようなイメージですか？描いてみよう！
絵ではなくてもキーワードを書くのもOKです
- 描いた絵を説明しながら、2050年「こんな町になってほしいなあ」を共有しよう。



※付箋や葉半紙の使い方などは各グループの進行役が説明します

グループワーク4: 2050年のビジョンを描く(視点別)

- 理想な町の姿を達成するためには、あなたには何ができるか、
また倶知安町全体ではどのような取り組みをしなくてはいいのでしょうか？
（昨日は年代別、本日は視点別）
- 倶知安町2050年のビジョンをキャッチコピーで表現する！

倶知安町から革命を起こす！安定収入と安定農業！（農業チーム）

AIを有効活用した渋滞フリー社会。（開発チーム）

- グループでキャッチコピーを5個に絞り、必要に応じてブラッシュアップする。

※付箋や葉半紙の使い方などは各グループの進行役が説明します

ルール

- 未来を見て**前向きな**話をしよう
- 一人一人の想いを大切にしよう
- お互いを「さん」で呼び合おう

グループワーク1: 現在の姿(視点別)

- まずはグループで簡単に自己紹介！
- 仕事や勉強内容・課外活動などを語り合い、打ち解けよう。夢や希望なども共有しよう。

私は野球をやっている。甲子園に行くことを目指しており倶知安町に夢と希望を与えたい

- 今の仕事や学校にどのように巡りついたのか、
誇りに思っていること、大切にしている価値観を共有しよう。

大学教員として次世代を作っていく若者が育つ過程に携わっていることを誇りに思っている。

- 視点に即した倶知安町の魅力や大好きなところを共有しよう。
また、あなたの大切にしている価値観も伝えよう。

私は自然が好き！
この倶知安町の山林は素晴らしい、豊かな自然の中でできるスキーは最高！
（観光・開発チーム）

※付箋や葉半紙の使い方などは各グループの進行役が説明します

グループワーク3: 2050年に向けて何ができるか(年齢別)

- まずは新しいグループで簡単に自己紹介（スケッチを持って移動）！
- グループワーク2で描いた絵を説明しながら、
2050年「こんな町になってほしいなあ」を共有しよう。
同年代の仲間から共感を得たり、フィードバックをもらおう。
- 理想な町の姿を達成するためには、あなた何ができるか、
また倶知安町全体ではどのような取り組みをしなくてはいいのでしょうか？

私の育てるタマネギをブランド化するため、町でチームになりSNSなどで発信、
アグリツーリズムもはじめる！（農業チーム）

町としては補助金を確保し、倶知安町食品のブランド力を高める！（農業チーム）

※付箋や葉半紙の使い方などは各グループの進行役が説明します

全体討議(65分)

倶知安町の2050年ビジョンをまとめる

- 各グループ進行役からキャッチコピーを5個紹介
- 「これが良い！」と思ったキャッチコピーに対し、一グループで一つずつ
全員が投票
- グループになって、No.1となったキャッチコピー1件に対し議論
※優先度の高いと多くの参加者が考えているキャッチコピー1つに対して、自
分自身は何ができるか、また倶知安町全体で取り組むべきことを考える
- グループで出た意見を共有し、最後は全体討議。

視点1：観光と開発と自然環境共生

視点（1）

観光・開発・自然環境共生

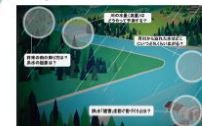
京都大学大学院 工学研究科
田中 智大

自己紹介：田中智大（京都大学）



地球上の水循環

水が多すぎるとき：洪水・氾濫



★所属：京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻

★専門：水文学、河川工学、土木工学

★研究テーマ：洪水予測、気候変動の影響評価、気候変動適応

★趣味：テニス（今週から）、ランニング（〇〇回目的の正産）

2023年3月25日

トピックプレゼン①（観光・開発・自然環境共生）

2

大事な要素（多い…）



2023年3月25日

トピックプレゼン②（観光・開発・自然環境共生）

3

開発？

・都市開発、リゾート開発、駅前開発... 結局何なの？

➢ 皆がどこに住んで、周りに何があると、安全で、便利で、楽しく過ごせるか？

- ✓ 職場：職場、学校まで行きやすいか？
- ✓ 観光：観光客が多すぎると迷惑？賑わい？
- ✓ 災害：山や川に近すぎないか？温暖化？
- ✓ 環境：野生動物や周りの自然とどう付き合う？
- ➡ 何を大切にしたいか？

自分が町長になった気になって考えてみる！



出典：写真：Shutterstock.com (2013年現在)

2023年3月25日

トピックプレゼン③（観光・開発・自然環境共生）

4

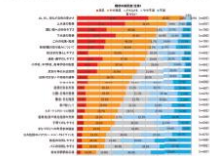
資料から見る俣知安町

俣知：自然豊かな生活を送る村とされている

公共交通機関や福祉施設、高齢者や子育て世代の満足度が課題

俣知：福祉施設の数と暮らしやすさを求めている

文化活動や街づくりの参加は希望が少ない



2023年3月25日

トピックプレゼン④（観光・開発・自然環境共生）

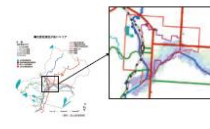
5

2050年を考えるヒント

①災害と共存した街づくり

俣知安町の街は洪水リスク下にある！

コンパクトシティ→町をコンパクトに！



俣知安町の町域が洪水リスク下にあること、公衆衛生、防災、環境

2023年3月25日

トピックプレゼン⑤（観光・開発・自然環境共生）

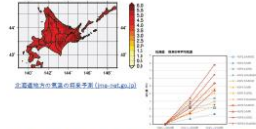
6

2050年を考えるヒント

②温暖化とスキー産業、暮らし

上質の降雪は必要。『あふゆる雪』で降雪が上昇する

今までの（ほかにいく）変化より降雪の方が変化が大きい



バタカンタリースキー場による降雪の増加？

アイスジャム波の多発？降雪の増加？



出典：国土交通省「気候変動適応計画」(2021年)、「気候変動適応計画」(2021年)、「気候変動適応計画」(2021年)

2023年3月25日

トピックプレゼン⑥（観光・開発・自然環境共生）

7

2050年を考えるヒント

③リゾートと仕事で来る海外の方との付き合い方

- ・リゾート開発によってまちの土地の値段が高くなっている
- ・スプロール化現象（郊外に宅地が無秩序に広がる）が生じた
- ・海外資本（＝外国の会社）が稼いだお金が海外に流れている
- ・山林が海外資本に買収されている（田中さんの資料より）

➢ 街の賑わい（観光・リゾート）と普段の生活（学校・まち）をどのような関係にしたいか

2023年3月25日

トピックプレゼン⑦（観光・開発・自然環境共生）

8

2050年を考えるヒント

④観光・開発・防災に役立つ環境保全

倶知安の自然がもたらす「生態系サービス」

- 【羊蹄山と民別川】倶知安じゃが・酒・野菜の生産基盤
- 【雪山と野生の動植物】多様な観光コースを提供
- 【広大な森林地】暴風・土砂崩れ・洪水を緩和
- 【豊かな自然に恵まれた暮らし】住民の高い満足度

スキーリゾートなど観光開発と自然環境保全をどう両立？

- 観光開発と環境保全を区域でわけける？
- 開発区域の環境はどのように・なにを保全するか？




まとめ：こんなことを話しませんか？

子供から若者、子育てする家族から高齢者までみんなが

- 「安全」（災害リスク）で
- 「暮らしやすい便利な」（交通利便性、公共サービス）
- 「まちの形」（土地利用、交通網）を考えるために

2050年の未来に何を大切にしたいか

そのためのいくつかの視点

- ① 街をコンパクトに！
- ② 暖かくなった倶知安町！？
- ③ リゾート開発の将来
- ④ 豊かな自然・暮らし・農業の関係

視点2：教育やコミュニティ発展と公衆衛生

視点(2) 教育やコミュニティ発展と公衆衛生



自己紹介：江口佳那（京都大学）

・所属
京都大学 大学院医学研究科 リアルワールドデータ研究開発講座（特定助教）

・経歴
2010.4-2012.3 京都大学 大学院情報学研究科 社会情報学専攻 修士課程
2012.4-2022.6 日本電信電話株式会社
2016.4-2019.3 京都大学 大学院情報学研究科 社会情報学専攻 博士後期課程（研究指導認定進学）
2020.3 京都大学 大学院情報学研究科 社会情報学専攻 博士後期課程 修了
2022.7-現在 京都大学 大学院医学研究科 リアルワールドデータ研究開発講座

・専門
医学、医療情報学、ヒューマンコンピュータインタラクション




目次

1. この視点で議論したいこと
2. 議論に向けたヒント
 - ・キーワードの再確認
 - ・将来の街のあり方を考える上で大事なポイント
 - ・倶知安町の現状と課題
3. まとめ

本トピックで議論したいこと

- 「2050年に、ニセコエリアを現在よりもっと魅力的な住みやすい街にする」ために、今後取り組むべき点を教育・コミュニティ発展・公衆衛生の観点から議論する



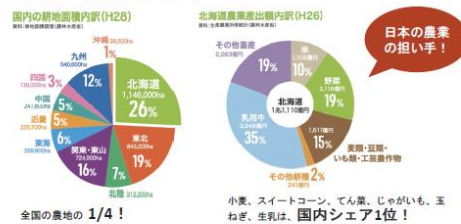
視点3：気候変動と一次産業

視点（3）

気候変動と農林水産業

京都大学医学部附属病院
磯部 昌憲

北海道と農林水産業



自己紹介

京都大学医学部附属病院
精神科神経科
児童思春期こころの相談セン

ター

2005年 医学部卒業
2007年 精神科医として診療開始
2011年 精神疾患・神経発達症に関する研究開始
2018年 現職（診療、研究）



北海道と食料自給率

$$\text{食料自給率} = \frac{\text{（食料の国内生産量の合計カロリー）}}{\text{（国民ひとりあたりの摂取カロリー）} \times \text{（総人口数）}}$$

日本は 38% ・ ・ ・ ・ ・ 北海道はなんと 216%！（もちろん全国1位）
国内全供給量の 24% を占める！

参考）
アメリカ 132%
オーストラリア 200%
イギリス 65%
中国 95%

北海道の農業は
食料の安定供給に大きく貢献

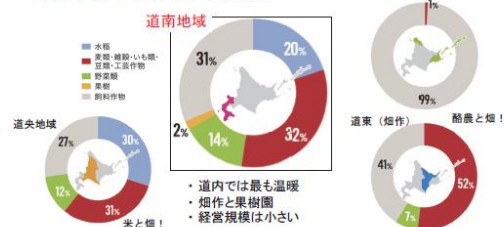
2021年度 農林水産省発表

北海道の林業と水産業

- ・ 林業
 - ・ 全国の森林面積の22%！（林野面積は第1位！）
 - ・ 林業産出額は 全国第3位、木材生産第1位
- ・ 水産業
 - ・ 海面漁業・養殖業産出額は2,307億円で全国第1位！
 - ・ ほたてが、すけとうだら、さけ類、こんぶ類の生産が全国第1位！
 - ・ 生産関連事業は、水産加工、水産物直売所の年間販売金額で全国第1位！

北海道の
1次産業は
日本全体を
支えている

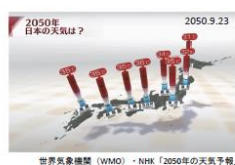
倶知安町（後志）と農業



農業が直面する問題（倶知安町も）

- ・ 高齢化、農業人口減少（担い手不足）の問題
- ・ 耕作放棄地の増加
- ・ 外国からの外圧
 - TPPによる価格競争
 - 外国資本による土地買付・・・

2050年の倶知安町 一気候変動一



世界中で気候変動が起っています。
過去10年間の日本の熱帯夜の平均日数は、
1910年からの30年間の平均の約2.6倍です。

<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/13goal/>

気候変動とは



「人間活動に直接又は間接に起因する気候の変化」

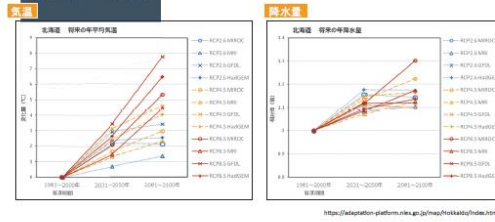
特に人間活動に起因して大気中に放出される温室効果ガスによる**地球温暖化**

温室効果ガス (GHG) の種類

二酸化炭素	
メタン	
一酸化二窒素	
フロンガス	
	ハイドロフルオロカーボン類
	パーフルオロカーボン類
	六フッ化硫黄
	三酸化窒素

UNFCCCインベントリ報告ガイドライン

2050年の北海道 (気温・降水量)

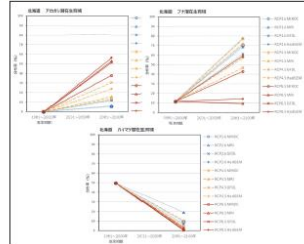


2050年の北海道 (生態系)



<https://adaptation-platform.nies.go.jp/mag/robokids/index.html>

樹木



気候変動対策



カーボンニュートラルとは

温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させる

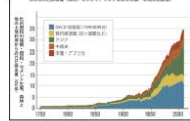
菅元総理 (2020年10月)

2050年カーボンニュートラル宣言

「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」



<https://www.unicef.or.jp/nodomo/sdgs/17goals/>



※国内の温室効果ガスの90%はCO2

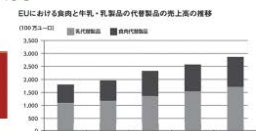
農林水産分野は
メタンや一酸化二窒素が多く、
温暖化係数はCO2の25、300倍！

農林水産分野でのカーボンニュートラル
達成に、北海道の活躍が重要！

2050年の倶知安町 —タンパク質危機—

2050プロテインクライシス

2050年、世界人口は97億人に達し、タンパク質必要量が2020年の2倍となり、供給量が必要量をまかないきれなくなる



<https://www.otsukafoods.co.jp/product/zeromeat/>

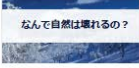
<https://grylls-online.jp/collections/otika>

EUにおける肉と牛乳、乳製品の代替製品の売上高の推移
(100万ユーロ)

まとめ：2050年倶知安町の農林水産業

- 北海道は「日本の食料基地」
 - 食の安全保障における役割も大きい
 - 技術開発および導入への貢献も(カーボンニュートラル、タンパク質危機、スマート農業)
- 2050年に向けて、現存する課題(担い手問題、耕作放棄地...)と、これからの課題(気候変動)の解決を、同時に考えていく必要がある
- 収益性の向上はその一助に
 - スマート農業(ドローンなどのロボット技術、IoT、AI...)北海道は中心！
 - 大規模化・共同化
 - 農作物のブランド化
 - 6次産業化(1次+2次+3次)

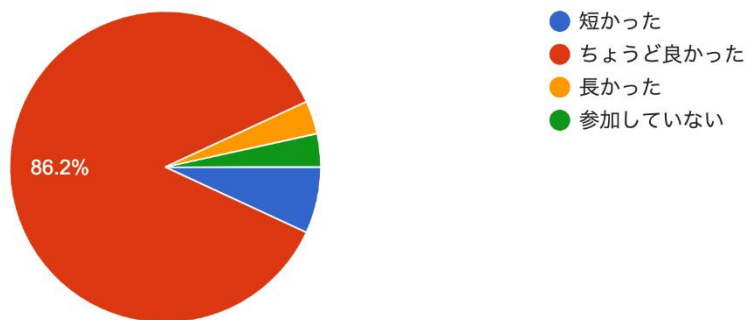


トピック1 観光・開発・自然環境共生 住むところ（住）	トピック2 教育やコミュニティ発展と公衆衛生 暮らし（衣）	トピック3 気候変動と農林水産業 食べ物（食）
 スキー場を増やす？	 こんな学校にしたい	 暖かい方がうれしい
 なんで自然は壊れるの？	 だれが電振きをしているの？	 県知安町のいもちを世界一にしたい

ANNEX5：アンケート結果

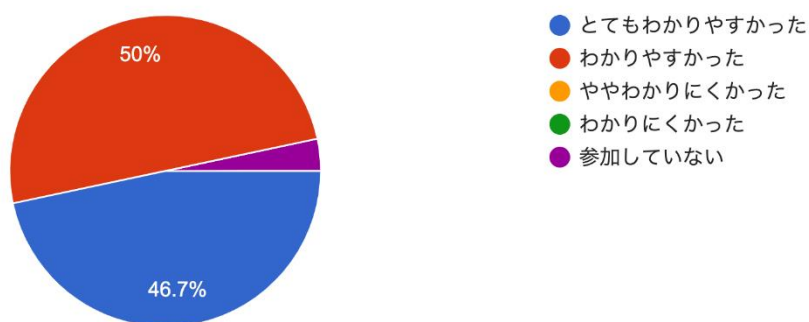
1-1) 全体講演(質疑応答含む)の長さについて伺います。

29 件の回答



1-2) 全体講演の分かりやすさについて伺います。講演はどの程度分かりやすかったですか？

30 件の回答

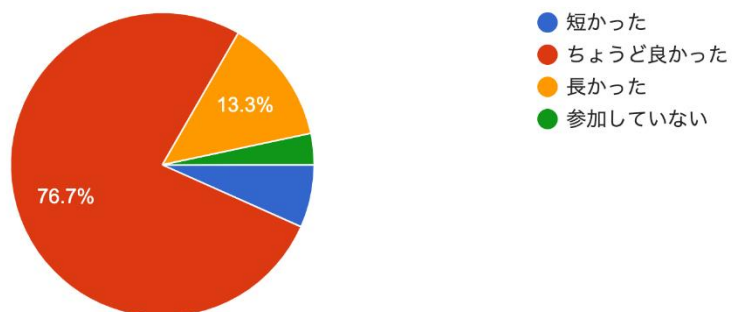


1-3) 全体講演について御意見等があれば御記入下さい。

- ✓ 倶知安町の将来を考える機会をいただきありがとうございます。明るい未来が見えるよう、大人としての責任を持って頑張りたいと思える会でした！
ありがとうございました。
- ✓ 倶知安町の今後の課題について、資料を提示しながら詳しく説明してくださって、とてもわかりやすかったです。
- ✓ 今のニセコの現状がよく分かる講演だと思う。
- ✓ forecasting感が強く、中高生が現実的な意見を述べた原因の一つになった気がする。
- ✓ 現状を認識する為に必要な公演だった
- ✓ 未来を話し合うにおいて、倶知安町の現実的な問題を知ることができて良かったです。
- ✓ 田中さんが危惧している倶知安が抱えている課題について、わかりやすかったです。
- ✓ 濃い内容でためになりました

2-1) 各「視点」の発表の長さについて伺います。

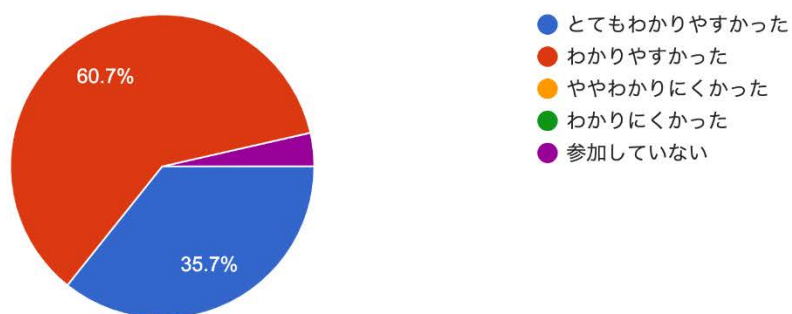
30 件の回答



2-2)

「視点」の発表の分かりやすさについて伺います。…境共生)」はどの程度分かりやすかったですか？

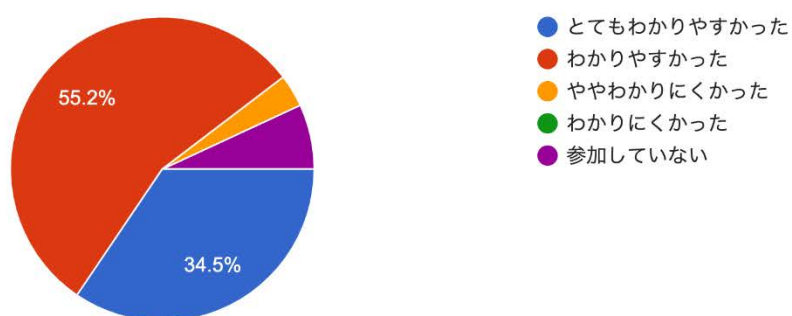
28 件の回答



2-3)

「視点」の発表の分かりやすさについて伺います。…衆衛生)」はどの程度分かりやすかったですか？

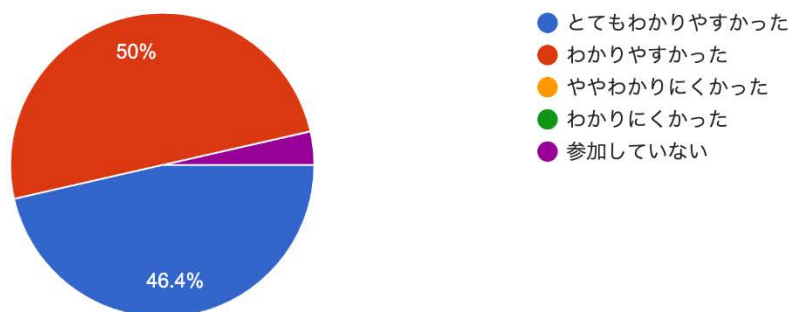
29 件の回答



2-4)

「視点」の発表の分かりやすさについて伺います。…次産業）」ほどの程度分かりやすかったですか？

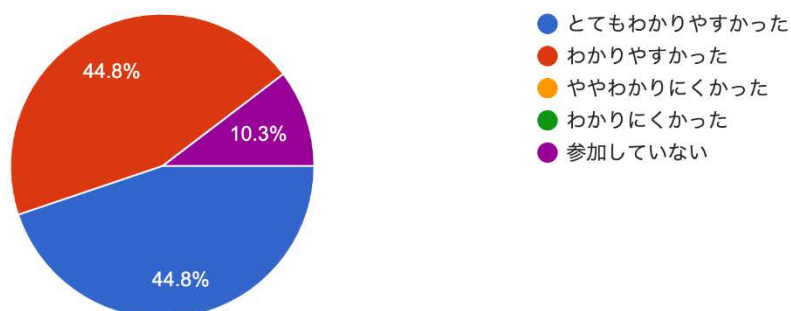
28 件の回答



2-5)

「視点」の発表の分かりやすさについて伺います。…高校生）」ほどの程度分かりやすかったですか？

29 件の回答



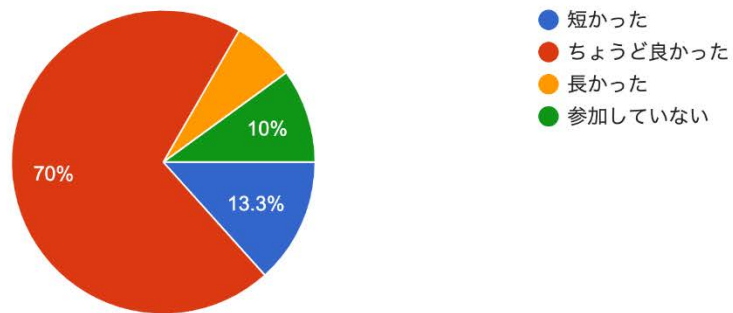
2-6) 「視点」の発表全体について御意見等があれば御記入下さい

- ✓ ワークショップの話し合いの前に、各司会の方から、問題点やキーワードを提示していただけたことで、ワークショップが円滑に進んだと思う。
- ✓ 町長さん、議員さんの講演と合わせると、インプットが長かったかもしれないと感じました。
- ✓ できれば各視点の専門の方にやってもらうのがいいのかなと感じた。
- ✓ 今回参加してくれた中学生高校生の堂々とした発表に感動した。
- ✓ 前の講義との間に休憩が欲しかった
- ✓ 全体的に当初予定時間よりも長くなる発表が多く、視点1～3については最初から15分程度でスケジュールした方が良かったかもしれないと感じた
- ✓ 視点が京大からの提供になったので、実際俱知安町自体の生の興味だつたのか、わからなかったですが、勉強になりました。
- ✓ だいたい理解できた。

3-1)

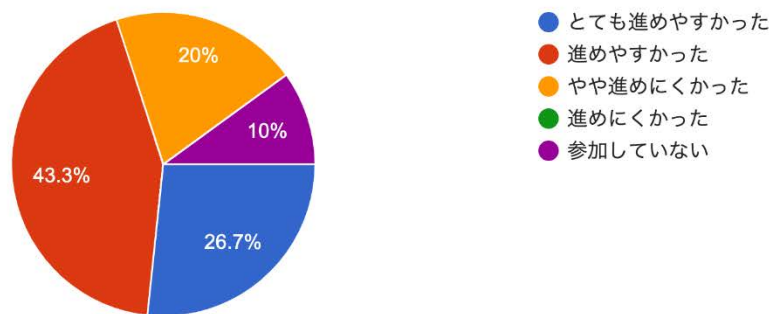
グループワーク1「自分たちが大切にしたい倶知安町の価値を引き出す」の長さについて伺います。

30件の回答



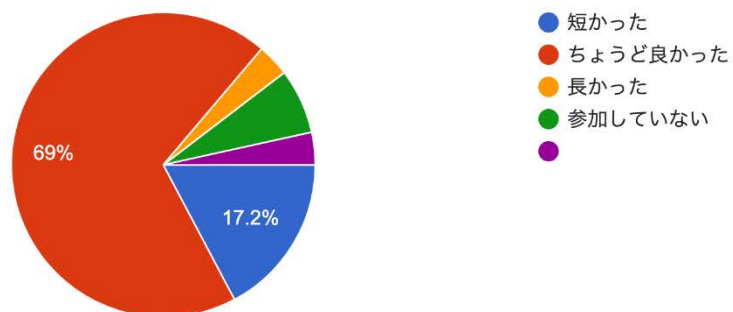
3-2) グループワーク1「自分たちが大切にしたい...います。グループワークはスムーズに進みましたか？」

30件の回答

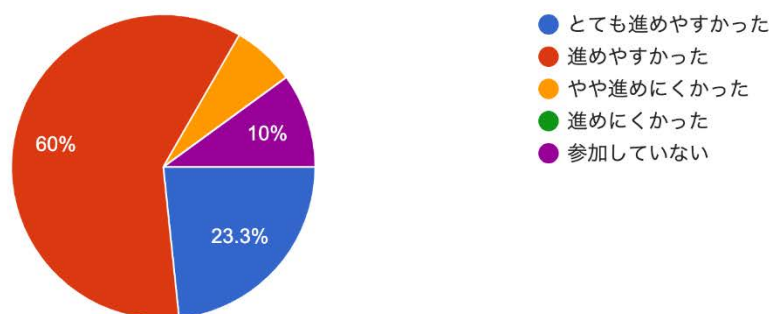


3-3) グループワーク2 実現したい倶知安町のビジョンを描く」の長さについて伺います。

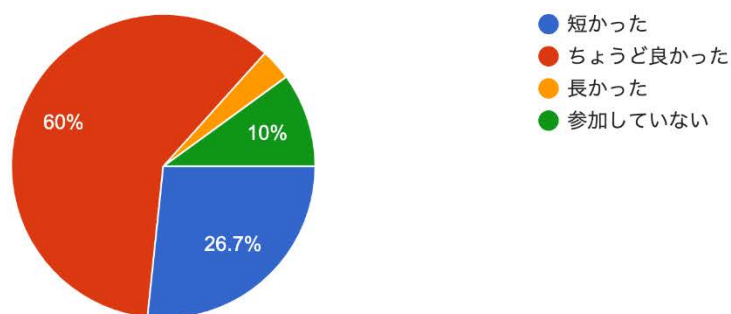
29件の回答



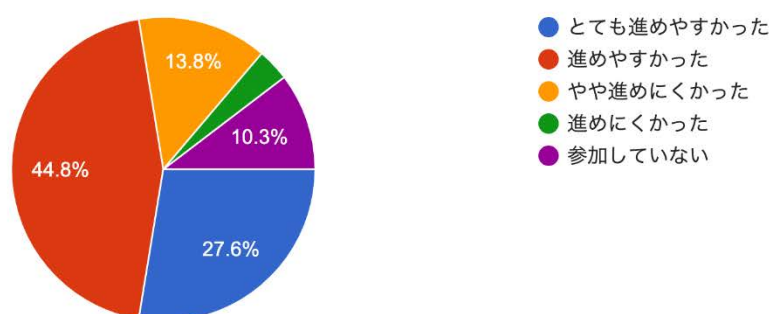
3-4) グループワーク 2 「実現したい倶知安町の...います。グループワークはスムーズに進みましたか？
30 件の回答



3-5) グループワーク 3 「ビジョンの共有と達成に向けて何ができるか」の長さについて伺います。
30 件の回答

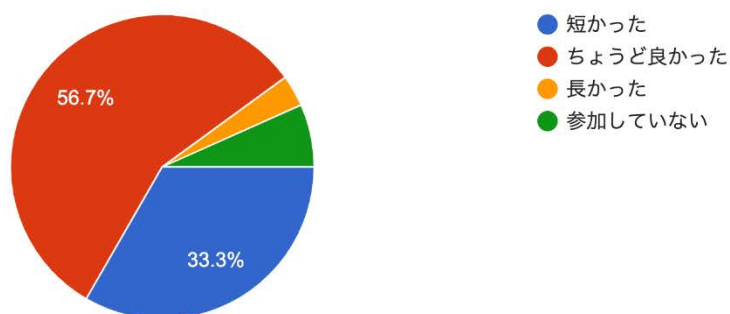


3-6) グループワーク 3 「ビジョンの共有と達成...います。グループワークはスムーズに進みましたか？
29 件の回答



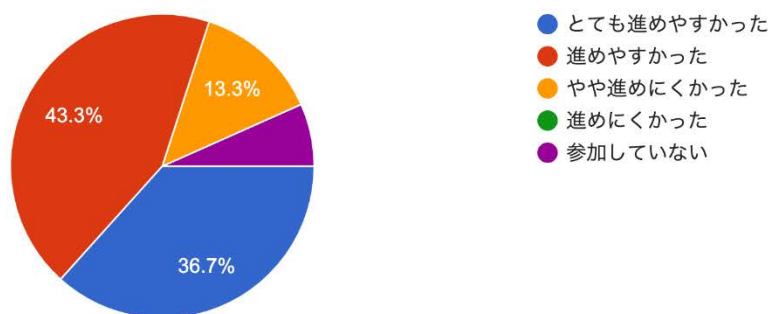
3-7) グループワーク4「ビジョンをまとめる」の長さについて伺います。

30 件の回答



3-8) グループワーク4「ビジョンをまとめる」...います。グループワークはスムーズに進みましたか？

30 件の回答



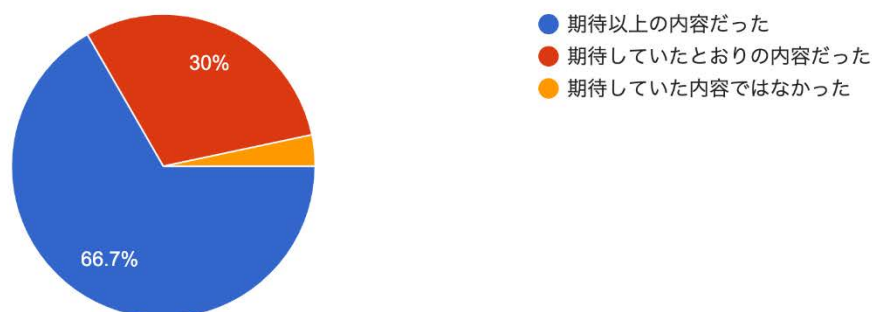
3-9) グループワーク全体について御意見等があれば御記入下さい。

- ✓ コミュニティと公衆衛生の班でしたが、もっと事前に勉強すべきだったと実感しました。
また、観光目線で話す京大陣と地元の方では考える方向が違い、擦り合わせに苦労しました。
- ✓ 視点別にグループが固定されていることで、それぞれの大切にしていることや価値観を尊重したワークショップになった。理想の倶知安やキャッチコピーをつくる時に、みんなの意見を入れ込もうという姿勢が、視点別でも、全体討論でも見られて、とてもよかったと思った。
- ✓ スライドなどで説明してくださったが、グループワーク同士のつながりをよりわかりやすく提示できるとよいと思った。
- ✓ 各グループワークの時間は短かったように感じるが、ではどのくらい長く取れば良いかとなると、集中できる限度や制約を考えると仕方ないのかともおもう。私のいたグループにおいては人数のバランスが少し悪かったと思う。なるべく地元と京大のペアを組もうとすると地元民の方が少なく、意見を出す頻度が必然的に高かった。
- ✓ 討論のテーマが多すぎるように思いました。
- ✓ 全体的に時間が短く感じました。年代別の議論はチームによって人数やグループワーク1&2のテーマが異なる人の比率の差が大きく、前提共有から始める必要があったため、年代別ではなく、視点ごとのチームで継続したほうが良かったように感じました。

- ✓ 途中参加者の方に、これから参加するワークショップで行っていることや終了時間を強めに伝達して頂けた方が良かったかもしれないと感じました。途中参加者の方がチームに貢献しようと意見を出して下さるのはとてもありがたいのですが、収束に向かっていところで時間を気にせず発散系話を途切れなくされると、進行管理がかなり難しいです。
- ✓ 皆様忙しいと思うので仕方ないとは思いますが、有意義であったためにすべてのグループワークを短く感じた結果になりました。
- ✓ 今回2日目しか参加出来ませんでしたが、議論の進め方纏め方についてとても勉強になりました。未来へ向けての新しい視座をいただいた。
- ✓ 色々な人の視てんを知れてとても楽しかった。
- ✓ とても楽しかったです。

4-1) ビジヨナリーワークショップの内容は、事前に期待した内容でしたか？

30 件の回答



4-2) ビジヨナリーワークショップ全体を通じて、あなたが最も「よかった」と感じたことは何ですか？

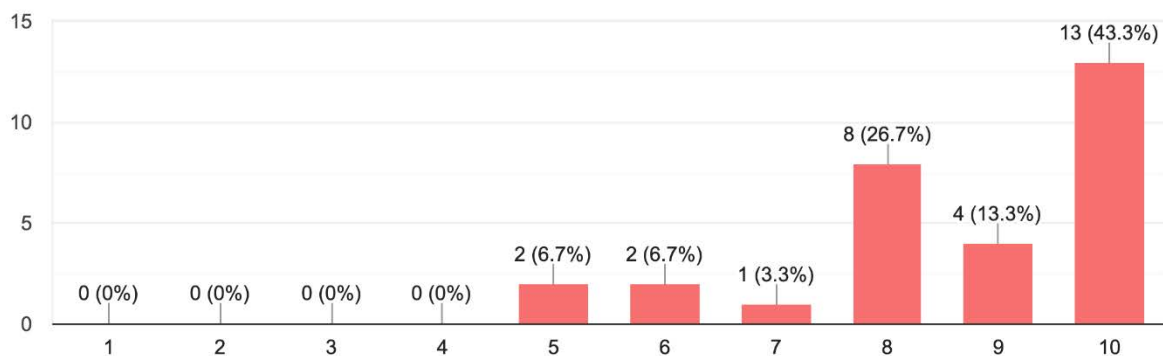
- ✓ 自分の意見を伝える場があったこと
- ✓ 意見を言う場を設けてもらったこと
- ✓ 話し合った事を最終的にキャッチコピーに落とし込んだ事。
- ✓ ただの観光の際には触れられない倶知安の良いところ、悪いところを知れた点
- ✓ 倶知安についての意見を、倶知安の人たちの意見を聞き、表情を見ながら話し合っていけるのがとてもよかった。
現地の人の思いや悩みと希望を直接ぶつけていただける機会になった。
- ✓ 参加者の熱量
- ✓ ほんとに地域参加者がここを愛してやまないことを感じれたこと。地域の中高生が大人子ども関係なく堂々と意見を出し、発表する姿にとっても感動！いろいろな視点から改めてニセコの良さを感じさせてくれる場となりました。京大チームのキレッキレ感も素晴らしい！！
- ✓ 守りではなく変化を恐れず攻めの姿勢で腹を割った会話ができたことです。
- ✓ 中高生と大人とそれぞれが違った視野を持っていて、それが混ざりあって新しい知見が得られたのが良かった
- ✓ 町民、学生、教員含めて皆が積極的に意見交換をおこなえたところ
- ✓ 全員が主体的に参加していたこと。

- ✓ 参加者に中学生高校生がいてそれ以外の世代の方とも率直に意見交換できた事。
地元な人々も表に現していないけれども、このエリアの今の自然や食、観光を大切にしている気持ちを知られた事。
- ✓ 立場・世代を超えて様々な観点から議論ができたこと
- ✓ 多くの方と知り合えたこと。そして話し合えたこと。
- ✓ 様々な方と意見交換ができたこと。交流ができたこと。
- ✓ グループの全員から積極的に意見が出されたこと
- ✓ みなさんが、活発に意見を出していたように思われ、議論として充実していたように思われました
- ✓ ネットワークが形成されていたこと
- ✓ 大学生の考え方が分かった
- ✓ 話す時間が多く振り分けられていた
- ✓ 意見を出して、まとめ、人に伝えること。

4-3)

ビジョナリーワークショップの満足度を0%（不満）から100%（満足）の数値で教えてください。

30件の回答



4-4) ビジョナリーワークショップ全体を通じて、感想や提案・御意見等があれば具体的にお書きください。

- ✓ 継続が重要
- ✓ 開催・運営ありがとうございました！
様々な職種に携わってる方の話を聞く良い機会になりました！
周りの方々が出すアイデアに圧倒される2日間で、良い刺激になりました！
- ✓ 今回は議員さんに協力していただいたが、地元の道立中学校や高校など、国の公的な機関と連携して行うことができれば、より倶知安を発信していけるのではないかと感じた。
ワークショップで話し合った内容が倶知安町に広がるような仕組みを考えられたら、より地域の未来に貢献できると考えた。
- ✓ 描いたビジョンにどう近づけるか？これで終わりにしないで進めたい。
そしてこのビジョンを多くの町民に知ってもらいたいですね。また来るしかないね！
- ✓ もちろんいくらでも際限なくできてしまうのでキリがないが、時間に限りがあったので、まだまだ言いたいことがあったのに！という思いは少しある

- ✓ 今回は下の世代は中学生まででしたが、小学生も参加させてもらいたい。高学年になれば全てを理解とはならないまでも、よりわかりやすく話せば必ず理解してくれます。大人が真剣に話し合う姿を子供たちは見て、そこから「ああ、自分たちの事をちゃんと考えてくれている」と感じ取ります。よろしくお願い致します。
- ✓ 話のスピードが早かったです。
- ✓ 同じ話題について他人と語るとは、自分の考えをアップデートするうえで大変有意義でした。
- ✓ 素晴らしい企画をありがとうございました
- ✓ 今度は京都に行きたいです